

17

スケルツィーノ・メヒカーノ (ポンセ)

Scherezino Mexicano / Manuel María PONCE

作品解説 / 富川勝智

メキシコ生まれの作曲家マヌエル・マリア・ポンセはさまざまなスタイルで楽曲を書いています。大別すると①民族的なリズムを用いた作品、②新古典様式を用いた作品、③ヴァイスやスカルラッティのスタイルを借りた作品、というふうになるでしょう。

この「スケルツィーノ・メヒカーノ」は、直訳すればメキシコ風スケルツィーノとなります。ポンセらしいシンプルながらも美しい旋律は、ギターにとっても映えるので昔から人気のある曲です。ジョン・ウィリアムズなど名演も多く、今でもプロアマチュアまでぜひレパートリーに加えておきたい曲の1つであることは間違いないでしょう。

しかし、実際に演奏するとなると、CDなどで聴いた感じよりも弾きづらいと感じるはず。楽譜どおりに弾いているはずなのに何故か音楽的に響いてこない……。実はこの曲の「キモ」は、まず南米のリズムの基本を理解することにあるのだと思ってください。誌面で説明するのはわかりにくいかもしれませんが、ぜひお付き合いください。

奏法解説 / 富川勝智

●リズム面～南米リズムの基本

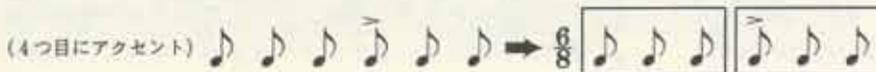
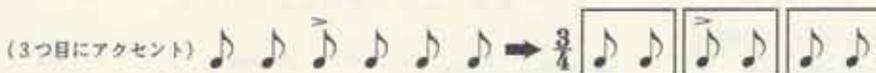
この曲は8分の6拍子で書かれていますが、4分の3拍子が混在しているリズムです。このような南米のリズ

ムを奏する際に、重要なのがそのリズムの原理を知ることです。知っておかねばならないのは、4分の3拍子であろうが、8分の6拍子であろうが、8分音符を基本にラテン・アメリカのミュージシャンはリズムを捉えているということです。そして、その8分音符の3番目または4番目にアクセントが落ちることが多く(譜例1)、その結果3拍子系(4分の3拍子)と2拍子系(8分の6拍子)のリズムが生まれるわけです。それを同時に演奏した場合のおもしろさが南米のリズムのおもしろさです。

2つのリズムが同じに小節に混在するのは、我々日本人にとっては難解に感じるかもしれません。まずは譜例2のような開放弦だけの簡単な練習曲で、この混合リズムを体感してください。右手運指 *ami* で1小節を大きく2拍子で感じて、*p* で弾かれる低音で3拍子を感じてください。

このリズムが上下逆になったものが「スケルツィーノ・メヒカーノ」です。つまりメロディーが3拍子系であり、低音の進行が2拍子であるのが基本というわけです(低音が変形して内声としての旋律になっている部分もあります)。メロディーと低音のリズムが一致しているように聴こえる部分もありますが、この根底には常に2拍子と3拍子が同時に進行しているリズムが流れていると考えてください。この曲のオリジナルはピアノですが、実はピアノで弾くほうがこの混合リズムを演奏する点においては楽であることは確かです。なぜなら、右手でメロディー、左手で低音……つまり、右手で3拍子、左手で

譜例1



譜例2

